

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692600030		
法人名	社会福祉法人みつみ福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームとだ (牡丹ユニット)		
所在地	京都府福知山市宇戸田82番地		
自己評価作成日	平成28年度2月9日	評価結果市町村受理日	平成28年度5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2692600030-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1「ひとまち交流館 京都」1階
訪問調査日	平成28年度2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である「共に生きる」の具現化に向け、「気配り、目配り、そして心配り」をモットーに、ご利用者、ご家族、そして地域に対し、きめ細やかな対応を心掛け信頼関係の構築に努め、事業を展開しています。
 ご利用者に対しては、その人らしい生活を送っていただくために、ご利用者の得意分野を生かし、ご本人の意思を尊重するとともに、明るく生活してもらえるように、職員は笑顔で対応し楽しい会話に配慮している。また、地域のボランティアを積極的に受け入れ活用する事で、自事業だけではなく多様なサービスが提供できるように取り組んでいる。地域に対しては、独居を含む地域高齢者との交流、地域高齢者同士の交流の場として「ふれあいサロン」「涼やかスポット」を開催、また、地域の方を招いて「餅つき」など、自治会長、民生委員と連携、協働し地域貢献に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(紫陽花ユニットと同じ)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「共に生きる」のもと、ご利用者やご家族、地域住民に対し、きめ細かな気配り、目配り、心配りをして信頼関係を構築することを理念として事業計画に明記し年度初めに全職員に周知徹底するとともに、事業計画にのっとり全職員が協力し事業展開している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会長、老人クラブ会長、民生児童委員と連携協力し、行事などに地域から来て頂いている。また、地域の公民館にてふれあいサロンを民生委員と協力して開催しご利用者、地域の高齢者との交流の場としている。夏にはホームにて「涼やかスポッ		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症あんしんサポート相談窓口を設置している。また、広報誌にて認知症に関する記事を掲載し地域に配布した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、事業所の都合と参加対象者都合が合わないこともあり日時設定が無地かしいこともあり、年間2回しか実施できていない。事業計画、事業報告の説明については実施できた。今後は2カ月に1回の実施を確実にやっていく。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議が計画的に実施できていないこともあり、連携があまり取れていない。今後連携の強化を図る必要がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	8月に身体拘束についての施設内研修を実施し職員の理解を深めた。		

京都府 グループホームとだ（牡丹ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市内の他事業所に虐待の事案が発生したこともあり、市主催の研修に管理者が参加、法人主催の研修に職員が参加、施設内研修も実施し虐待防止に努めた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用する必要があるご利用者は現時点ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に重要事項説明書により説明をし疑問点については申し出て頂き、説明し理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口職員を配置するとともに苦情受付ボックスを設置し日常的に苦情・要望・意見を受け付けている。また、ご顔z九酸化の行事ごとにアンケート調査を行いご意見をいただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、職員会議にて職員の意見、提案について協議する場を設け運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規職員は目標管理シートを含む人事考課制度にて努力、実績、勤務状況等を把握し給与に反映させる仕組みがある。それ以外の職員については、職務状況を把握し、契約更新時毎に評価し給与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修にて知識・技術の向上を図るとともに施設外研修にも全職員が参加できるように計画的に進めている。また、法人として資格取得に対し助成制度がある。		

京都府 グループホームとだ（牡丹ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福知山市施設連絡協議会の役員として管理者、介護職員が会の運営を通じて交流を図っている。また、グループホーム連絡会を通じて他事業所との交流を図っている。グループホーム連絡会主催の交換実習は、職員配置に余裕がなく実施出来なかった		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の安心を確保するため、本人の困っていること、不安なこと、要望などに耳を傾け、信頼関係の構築に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が気軽に要望などが言い出せるように、面会時に積極的にコミュニケーションをとり関係づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等からの情報収集に努め、必要とされていることへの情報提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般を通し、できることは一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、毎月の手紙で生活の様子を伝えている。通院や外出も可能な範囲で家族に対応してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の可能な範囲で自宅への帰宅、外泊、通院や理美容室への外出など一緒に行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士の関係性に配慮しつつ、余暇活 動や調理などを通じて関わり合い、支え合 えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰される方はなく、特別養護老人 ホーム等の施設へ行かれる方ばかりであり、 退所後のサービスは新しく入所された施 設に任せているのが現状であり、退所後に フォローを求められることがない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入所にあたり希望、意向を聞き取りサービ スに反映できるように取り組んでいる。聞き 取りが困難なご利用者には本人本位に検 討しサービスに反映できるように取り組んで いる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご家族、担当ケアマネあるいは利用されて いた事業所から情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	食事摂取量、排泄状況（把握が必要なご利用 者限定）、定期的なバイタルチェック、特 記事項のケース記入などにより職員が情報 を共有するように心掛けている。昨年度1ユ ニット増設して以来、新規ご利用者のアセス メントはPCソフトを使用して介護計画につな		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	課題とケアの在り方について必要に応じて 家族に意見徴収しユニット会議にて話し合 い介護計画を作成しているが、昨年度外部 評価で指摘を受けたより具体的な援助内容 の記載に至っていない。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報の 共有に努め、必要に応じて協議し実践や介 護計画の見直しに活かしている。		

京都府 グループホームとだ（牡丹ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	理美容室への外出を家族に委ねていたが、対応が困難な家庭もあり、訪問理美容を導入した。また、余暇提供についてはご利用者の能力に合わせ創意工夫している。また、地域ボランティア、音楽療法士など外部から招き余暇提供に活かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に作品を展示し、希望者は参加してもらっている。また、地域のボランティアに定期的に来てもらい交流を図っている。また、隣接する保育園の園児との交流を定期的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族による通院を基本とし、通院時には日頃の体調や様子を伝えている。通院時には日頃の体調の様子を伝えている。また、往診を受けている利用者もいる。日頃より体調変化があった時はその都度ご家族に連絡している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のかかわりの中でとらえた情報や気づきを記録に残すとともに看護師に伝え相談し、必要に応じて家族、主治医に連絡し受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的な面会と家族、病院からの情報提供をお願いしている。退院にあたってはカンファレンスに出席し状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、重度化対応指針を作成し説明し同意をもらっている。今年度においては、ターミナルケアの対象となる利用者があったが、主治医からの指示が得られず療養型病院への転院となったケースがあった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の講習会については今年度は3月に実施予定。		

京都府 グループホームとだ（牡丹ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設のケアハウスと合同で、避難訓練については毎月実施している。うち、水害想定と地震想定を1回ずつ実施、水害想定については、当地域からの避難が必要なため、法人内の他事業所の応援体制のもと、高台にある高齢者施設に実際に即した形で実施し		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議にて法人の倫理綱領、職員行動規範について説明し周知を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎月利用者の話し合いを実施。各担当から事前に希望などを聞き取り次月の行事などに反映できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に沿った支援を基本としているが、利用者の思いを大事にし柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれについては必要に応じて助言する等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理づくりや準備片づけについては、利用者のできる範囲で手伝いをさせていただいている。食事は職員も一緒に行い会話を楽しんでいる。茶碗、湯呑み、箸は持参していただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接しているケアハウスの栄養士による献立をもとに調理している。また、利用者個々の摂取量を記録している。また、水分については定時に補給してもらい摂取量を記録している。		

京都府 グループホームとだ（牡丹ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の能力に合わせ、就寝前に歯みがき、うがい、義歯洗浄などの口腔ケアに努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄能力に合わせて定期的な声かけ、排泄介助を行い、できるだけトイレで排泄ができるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動として毎日のラジオ体操、タオル体操をして頂いている。また、定期的な水分摂取をして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴で1対1介助でゆっくりと入浴できるようにしている。週に2度を基本とし、希望があればそれ以上の入浴も可としている。また、拒否があれば入浴日をずらして対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく休めるように至温設定を行っている。また、不眠時には傾聴に努めるとともにゆっくり休めるように適切な声かけを行い、睡眠時間が短かった時は、翌日に申し送りを必ずし昼寝をして頂くなど体に無理がないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員がくすりの内容について十分に理解することはできていない。現在、服薬内容については個々のケースに閉じているが、今後、一括で分かるようにファイルで閉じて、職員が理解しやすいようにまとめることとする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ごとの生活歴や力を把握し、それを活かした役割や楽しみごと、気分転換などの支援を心がけている。		

京都府 グループホームとだ（牡丹ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、気候、利用者の思いに配慮しつつ、日課として施設周辺への散歩に出かけている。また、外食や地域の観光名所などへの外出をしている。また、家族にお世話になり多目的の外出をして頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて家族に了解を得て小遣い程度のお金を所持し外出時に使用して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自宅に固定電話あるいは携帯電話を持ち自由に電話されている方がいる。毎月ホームからご家族に出す「ご利用者の生活の様子」と一緒に家族あてに手紙を書かれている方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、食堂、居間、廊下には利用者や寄贈の作品を展示し、照明は和紙の電気傘を使用し柔らかく落ち着いた空間演出を心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを活用し、一人でもグループでも過ごせる居場所づくりを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトについては利用者、家族の意向を尊重し、なじみの物品の持ち込みを自由としている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーにし躓きのないようにし、廊下には手すりを設置し安全に生活ができる環境にしている。		